

ただ念仏

徳くほ報う

No. 8 4

発行

令和6年10月

発行元 徳泉寺

仙台市宮城野区

榴岡3-10-3

(022)297-4248

[tokusenji.send](mailto:tokusenji.sendai@gmail.com)

[ai@gmail.com](mailto:tokusenji.sendai@gmail.com)



ホームページ

[tokusenji-](http://tokusenji-sendai.com)

sendai.com



Instagram

[tokusenji.sendai](https://www.instagram.com/tokusenji.sendai)



TOKUSENJI.SENDAI

令和六年度報恩講勤修されました

去る十月二十四日徳泉寺報恩講が勤修されました。

報恩講は宗祖親鸞聖人の御命日法要として真宗寺院では必ずお勤めされる法要です。徳泉寺でも毎月の聞法会である同朋会員の方を中心に準備から片づけまで多くの方の関わりをいただいで、無事に修めることができました。本当にありがとうございます。

今年は4年振りに御齋（お食事）を再開しました。以前は前日から仕込みをして手作りの御齋をみんなで召し上がっていました。がコロナ禍以降それも叶わず、今回は手配したお弁当をいただく形式にしました。お弁当屋さんのご厚意で親鸞聖人の好きだったがんもどきを入れていただくことができ、形は変わりましたが、年に一度、みなさんで美味しい食事をいただいで法要を待つことができ、有り難く感じました。

勤行には市内の真宗寺院から八名のご住職をお迎えし、普段より重厚な正信偈での勤行。大変難しい節のお勤めですが十月の同朋会で練習したおかげもあって、門徒・僧侶合わせてみなさんで声をそろえ修めさせていただきました。

続いて法話では岩手県北上市、通來寺より清谷真澄ご住職をお迎えして「ただ念仏」ということをテーマにお話しいただきました。映画『千と千尋の神隠し』を題材として、阿弥陀の名前を称えるお念仏について、ご丁寧にお話しいただきました。

毎年少しづつ形を変えながらですが、有縁の方々と共に心を落ち着けて手を合わせることができ、感謝の一日となりました。

報恩講法話 講師 清谷真澄氏（岩手県北上市通來寺御住職）



宮崎駿監督のアニメ『千と千尋の神隠し』という映画をご存じでしょうか。主人公の少女「荻野千尋」は湯婆婆によって名前を奪われ「千」と名付けられます。このことを宮崎駿監督は「名前を奪うということはその人の歩んできた人生そのものを奪って相手を完全に支配するということだ。」と語っています。これはとても鋭い視点だと感じます。ハンセン病患者や北朝鮮拉致被害者も名前を奪われ、帰るところを奪われました。日本人もかつてアジアの方達を強制連行して名前を奪ったという歴史があります。名前というのは単なる記号ではなくて、存在そのものを表す言葉だということができます。

「ただ念仏せよ。」と親鸞聖人はおっしゃいました。念仏とは「南無阿弥陀仏」阿弥陀という仏さまの名前を称え南無する、阿弥陀さまへ帰依します、拠り所とします、ということ。ただ称えればいいのか？という単純で重要な疑問が湧くかもしれません。「南無阿弥陀仏」をどうとらえているか、という問題です。これは、単なる呪文ではありません。阿弥陀という仏さまの名前を称えるという念仏には、その背景に浄土真宗の真実の教えのすべてが込められています。全ての命が平等に救われる、平等に浄土に生まれることができるという真実です。『千と千尋の神隠し』の千尋は名前を忘れたことから帰ることができた。私たち真宗門徒は阿弥陀さまの名前を称えて、本当の故郷である浄土へ還る。そのために声に出してただ念仏して参るのです。